

(様式1) 令和3年度 那須烏山市立境小学校 学校評価報告書

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者) の 意見等
学校運営	教育課程	○特色のある教育課程を工夫するとともに、PDCAサイクルを意識し、評価改善に努める。 ◇小規模校のよさを生かした教育課程の編成及び実施に努める。	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	○授業時数の確保や日課を臨機応変に運用するなど、適切に管理を行いながら教育課程を実施することができた。 ○コロナ禍であったが、運動会をはじめ多くの教育活動を工夫しながら実施することができた。 ●小規模特認校の指定を受け、さらに特色ある教育課程の編成に取り組む必要がある。	B	○PDCAサイクルを生かし、本年度の反省を踏まえた上で、計画立案を行う。 ○週あたりの授業時数を増やして、外国語教育の充実を図る。 ○複式学級を配慮した学校行事の計画、立案を行う。	○山や川に囲まれた地域の特性を生かした活動ができるとよいのではないか。また、そういう外部団体との関係をもてるとよいのではないか。 ○オオムラサキ関係やみかん狩りなど、境小学校の大きな特長を生かすとよい。
	組織運営	○校務のバランスを考えた人材配置に努める。 ◇教職員の特性を生かした適材適所の配置と、複数の職員がチームとして連携できる体制を整える。	適材適所 研修の充実 働き方改革	○一つの分掌に複数の教職員を配置し、教職員の適性や経験年数等を考慮した人材配置を行った。その結果、担当者同士がいろいろと意見を出し合いながら計画立案し、よりよい教育活動を実践することができた。 ●職員数の減少を見据えた上で、次年度はより教育効果の上がる適切な人材配置に努めていく。	A	○中堅職員と若手職員のペア、経験のある職員と未経験の職員のペアなどの配置を意図的に行い、これまでの経験を伝えたり、相互に意見交換を行ったりしながら、職員の育成や組織の活性化をさらに図っていく。	
	環境整備	○校内外の整理整頓、環境整備に努める。 ◇児童が安全・安心な環境の中で生活できる学校づくりに努める。	施設利用 安全点検 教室配置	○定期的な安全点検、日常的な巡視、保護者や地域住民、児童などから得た情報などを生かしながら、学校内外の安全管理を行うことができた。 ○花壇や農園整備については、学校支援ボランティアの協力を得ながら行うことができた。 ●農園については、本年度植物の育ちがよくなかった。	A	○地域人材を有効に活用しながら、校内外の環境整備を進めていく。(除草作業、農園・学級花壇の整備、図書ボランティア等) ○農園、学級花壇の運用について見直しを図る。(配置、追肥等)	○冬場にできる環境整備(春以降の除草作業を緩和する作業等)があるので協力したい。

	地域連携	○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇家庭・地域・関係諸機関と連携を図る。	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	○学校だよりや学年だより、学校ホームページ等により、学校の情報を発信し、保護者や地域の方からの理解を深めてもらうことができた。 ●感染症対策のため、予定していた地域連携事業が実施できなかったり、内容を縮小して行わなければならなかったりした。	B	○教育活動に必要な地域人材を洗い出し、地域コーディネーターとの連携を図りながら有効活用していく。 ○保護者が参加する活動については、保護者の意見等を参考にしながら、教育活動の計画立案を行い、実施していく。	○夏休みのボランティアに高校生取り入れた活動ができるのではないかな。 ○地元企業とのタイアップが図れるとよい。 ○学校と地域コーディネーターの連携をより深めながら、地域連携を深めていきたい。 ○学校運営協議会の委員を、保護者に紹介する場を設けるとよい。(PTA総会等)また、委員の方に学校を見てもらう機会を多く設ける。
知の教育	学習指導・各教科等	○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇学び合う授業づくりを通した言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	主体的・対話的・深い学び	○学習指導主任や学力向上推進リーダーを中心として研修の機会を多くもち、教師の授業力の向上に努めた。 ●授業づくりを通した言語活動の充実、コミュニケーション能力の育成については、今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ●自主学習については、学習量や内容に学年差や個人差が見られた。	B	○学力調査の結果等を踏まえ、学力向上改善プランを検証し、本校児童の実態に応じた学習指導の在り方を検討する。 ○算数科を中心として、児童が問題解決に主体的に取り組み、その過程を適切に表現できる能力の向上を目指す。 ○自主学習については、学年や個に応じて進め方(めあてのめたせ方、振り返り)を指導し、継続的に取り組めるようにしていく。	○読み書きや計算など、基礎的な教育に力を入れてほしいという保護者の声を聞くので、そこに重点を置くのも大切ではないかな。
	情報教育	○一人一台の情報端末の有効活用に努める。 ◇ルールやマナーを守りながら、情報収集や伝達手段として、情報端末を計画的に活用する。	プログラミング教育 情報活用能力	○情報端末(学びPC)の活用について、情報主任を中心に研修の機会をもち、授業を中心に多くの場面で有効活用することができた。 ●情報端末の使い方や情報モラル等について、今後も継続的に指導することが必要である。	A	○校内研修をはじめ、教職員のPC活用能力を高める機会を多くもつ。 ○情報モラルについては、保護者の協力理解を得ながら、児童に継続的に指導していく。	○プログラミング教育の充実を期待している。できれば研究職の方を講師としてお招きしてはどうか。 ○学びPCについては、より活用能力を伸ばしてほしい。
	国際理解教育	○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。 ◇外国語科、英語コミュニケーション科、外国語活動の充実を図る。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケーション	○ALTや外国語教育専科教諭と学級担任との連携協力体制を構築して授業の工夫改善に努めた。 ●英語学習の授業時数増加に伴い、年間指導計画の見直し、作成が必要である。	B	○教員の授業力向上のため、職員の研修機会を設け、専科教諭の専門的知識を伝達するようにしていく。 ○次年度からの外国語学習の時間の増加に向け、年間指導計画の見直しを図る。	○英語教育については、今後よりグローバルに使えるような指導を期待している。 ○英語は短いスパンで学ぶと身に付くので、3分間英語タイムのような「聞く・話す」時間を設定するとよいのではないかな。 ○日常生活や校内環境の中に英語の枠を入れるとよい。

心の教育	児童・生徒指導	○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。 ◇規範意識の高揚と豊かな心の育成に努める。	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	○職員会議や学担会等で共通理解を図りながら児童指導を行い、児童が決まりを守って生活することができた。 ○児童の日常生活の観察や心のアンケートを通して、いじめ・不登校等の問題行動の早期発見と解決を図ることができた。 ●児童のあいさつは、今後も継続的に指導する必要がある。	A	○教職員の率先垂範となるあいさつの励行や、児童会活動を中心としたあいさつ運動等を実施する。	○マスク着用や大きな声の禁止などが、子どもたちのあいさつにも関係しているのではないかと。 ○通学の仕方(スクールバス、保護者の送迎等)もあいさつができないことの要因になっている。
	特別支援教育	○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。 ◇特別な教育的支援の必要な児童への指導の工夫を図る。	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	○特別支援教育コーディネーターを中心として、個別の支援計画を作成し、共通理解を深め、指導体制を整えることができた。 ●保護者の理解を得ながら、個に応じた支援体制を確立しようと努めたが、十分でなかった。	B	○保護者との情報共有を図り、連絡を密にとりながらよりよい指導支援の在り方を検討する。 ○関係諸機関との連携をより深めながら、児童一人一人に応じた指導ができるようにする。	
命の教育	健康教育	○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇感染や感染拡大防止のために、日常の感染症対策の徹底を図る。	保健教育 保健管理	○新型コロナウイルス感染症対策を徹底した教育活動を行ったことで、児童や教職員の健康管理に対する意識や実践力が向上した。 ●コロナ禍で、予定していた体力向上への取組が十分に行えなかった。	B	○国や県、市などからの正確な情報を収集し、それに基づいた感染拡大防止対策を今後も徹底していく。 ○感染症対策を踏まえた上で、体育学習を中心とした体力づくりの方法を検討し実践する。	○コロナ禍の影響や、新たな教育活動を取り入れることにより、体力面の低下が懸念される。
	安全教育	○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。 ◇危険を予知し、自ら自分の身を守るための安全教育の推進を図る。	危機管理 生活・交通・災害安全	○本年度は、土砂災害を想定した避難訓練を実施し、教職員や児童の安全に対する意識をより深めることができた。 ●非常事態の事案が多くなってきていることから、様々な場面を想定した避難訓練を実施することが必要である。	B	○二次災害まで想定した総合的な避難訓練を実施する。 ○コロナ感染対応を含めた引き渡し訓練について、保護者との連携を図りながら、適切に実施できるよう準備する。	
	食に関する指導	○食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。 ◇望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら健康管理できる能力の育成に努める。	給食管理 アレルギー	○給食センターと連携を図りながら、各学年とも食に関する指導を実施し、児童が食への関心を高めることができた。 ○コロナ禍での食事マナーを意識させ、衛生的な給食活動を行うことができた。	B	○学級活動の「食に関する指導」と関連付け、次年度も給食センターとの連携を図るとともに、外部講師を招いての食育指導を実施する。	